

今月のカンガルークラブ

『日本赤十字社鳥取県支部の方に 救急講習をして頂きました』



異物を除去する方法や乳児、幼児の一次救命処置の手順など実際に起こるかもしれないトラブルの対処法を勉強しました。何事もないのが一番ですが、もしもの時に子供の命を守るよう今回の講習を生かしたいです。

福塚 福田 里奈



食欲の秋・勉強の秋・友達との遊びが盛り上がる秋。毎日賑やかな声が響いています。深まる秋を満喫しながら友達との繋がりも深めて欲しいと思っています。

林業アカデミー奮闘記

ICT林業で省力化

今後日本の人口は減少するなかで、林業の人材確保は益々厳しい状況になります。他産業では外国人移民の活用も実施されていますが、林業では外国人労働者は規制されています。そこで期待されるのが、ICT林業による省力化の推進です。ICTとは情報伝達技術の訳で、林業分野では森林資源情報や販売価格情報の共有による効率化や出荷先戦略への応用が期待されています。

林業アカデミーでは、11月から公開講座として鳥根大学の米康充先生（よねやすみち）にお越し頂き授業をして頂きました。初日は、ICT林業の基本とドローンを使って空から2か所の施業現場を撮影しました。2日目は、ドローンで航空写真のデータを基に、QGISというフリーソフトを用いて、データ解析を行いました。授業の内容は、NHKでも放送されるなど注目を集めました。

人口減少社会の中で先手を打って持続的な森林経営を行うには、現場だけでなく積極的に行政も協力して、ICT林業を推進して効率化を早期に図っていく必要があります。



獣害対策 最前線

電気を流さない 電線ははずす！

日野郡鳥獣被害対策協議会
実施隊チーフ 木下卓也
【問い合わせ】72-1399

今回は、冬の間は電気柵の電線に電気を流さないの、はずしておきましょう！というお話です。

まず電気柵は「心理柵」と覚えておいてください。「心理柵」というのは、ワイヤーメッシュ柵のように「物理的に侵入を阻む」効果はありません。電気柵の電線をイノシシが初めて見たとき、見慣れないものがあるな、何だろう？と、においや感触を確認しに近づいてきて鼻をつけます。その時にビリッと感電し、激しい痛みを鼻先に感じ、その痛みをイノシシは覚えます。つまり、「電線は痛い！」と「学習」するので。

次にその電線を見たとき、前に触れた時は痛かったんだよねあと思いつつ、再確認してしまいます。そしてやっぱり痛い思いをします。そしてもう二度と触れないでおこうと思うわけです。これを「強化」と言います。

このように学習と強化という心理学的なアプローチで成立しているのが、電気

柵なのです。

ときどき、「ひもを張っているだけでも効果がある」と言われる方がおられますが、まったくの間違いです。「電線は痛い！」ことを学習しているイノシシにのみ効果があるだけです。まだ何も学習していない個体には、まったく効果がありません。それどころか「ひもに触れても痛くない」という間違った学習をしてしまい、電気柵の電線に触れなくなる場合があります。そう、電気を流していない電線は効果が無いどころか、電気柵自体が無用の長物にしてしまう危険をはらんでいます。

電気を流さないときは、電線ははずしておきましょう！

